



## 受け止めが変わったら

あるサラリーマンがバスの中で体験した出来事をもとに、先輩の校長先生からこんな話を聴きました。

・・・その日、彼は会社の仕事で出向先までバスに乗りました。しかし、生憎バスは一杯で、ぎゅうぎゅう詰めバスに乗ったら、中はすごい熱気で最悪の状態。しかもバスの後ろの方で赤ちゃんがギャーギャー泣いています。

彼は何でこんなバスに乗ったのか、自分の運のなさを嘆きました。しばらく我慢していると赤ちゃんの泣き声がだんだん大きくなっていきます。不快感も限界だと思ったら、赤ちゃんを抱いたお母さんがバスの後ろから近づいてくることに気づきました。お母さんはバスを降りようとしているのです。彼はやれやれ良かったと思いました。



そしてバス停でお母さんが降りようとしていた時、運転手さんが聞きました。

「どこまで行きたいんですか？」

するとお母さんは、  
「大学病院まで行きたいのだけれど、この子が泣いて迷惑をかけるので、ここで降りて歩いて行こうと思います。」

と答えました。運転手さんが、  
「赤ちゃんが病気なんですか？」

とたずねると、  
「熱があってしんどいようなんです。風邪をひいたんだと思います。」

と答えます。すると、運転手さんはマイクを持って乗客のみんなに言いました。

「ここに風邪をひいて熱のある赤ちゃんとそのお母さんがいます。みんなの迷惑になるのでここで降りて歩こうとしています。大学病院まで停留所はあと3つです。みなさん、我慢していただけませんか。」

一瞬乗客はシーンとなりました。その後、何人かの人々が拍手をしました。そしてその拍手はバス全体に広がり大拍手になりました。お母さんは赤ちゃんを抱いたまま泣き始めました。そのサラリーマンも目頭が熱くなりました。そして思ったそうです。

「自分は素晴らしいバスに乗れてよかった」と。その赤ちゃんが泣いていても、人の熱気でムツとしていても、むしろそれが有難く感じられたそうです。

人の熱気でむせ返り、赤ちゃんが泣き続けているバスの状況は同じです。それなのに、不快感から「素晴らしいバスに乗れてよかった。」と気持ちが変わっています。不思議ですね。私たちは、いらだったり、怒ったりしたとき、その原因をよく出来事や人のせいにします。こんなことがあったから腹を立てたんだと話します。しかし、結局のところ、出来事や人の問題ではなく、それを自分がどう受け止めたかで決まるんですね。・・・

「神対応」という言葉がありますが、このバスの話では、運転手さんの言葉でバスに乗っている人たちの受け止め方が変わりました。このような周りの人の受け止め方を変えてくれる「促し」を、きっと「神対応」と言うのでしょうか。ただし、この「神対応」には、病気の赤ちゃんのことを思いやる、頑張っているお母さんの気持ちがわかる、といった別の受け止め方をその人が持っていることが必要になります。別の受け止め方を持っていない人に、どんなに促したとしても、それが理解されることはないでしょう。今の子どもたちには、そのような受け止めの経験が圧倒的に不足しています。コロナ過で人とかかわりを絶たれていた子どもたちにとっては、今が受け止め方を学ぶ時です。「本当はこんなことを伝えたかったんじゃない？」など、大人が様々な受け止め方を提示することで子どもたちは学びます。受け止め方が柔軟になっていくと自分も周りも幸せになっていくのではないのでしょうか。